

阿南 ぶらりまち紀行

ふるさと「阿南市」のすばらしい魅力を再発見!

～地域の輝き～

第116回



おいのこさんのうた
亥の子 亥の子
今夜の亥の子
餅搗(つ)いた家は
金の柱で蔵建てて
小判で葺(ふ)いて
豊作じゃ 満作じゃ
豊作じゃ 満作じゃ
豊作じゃ 満作じゃ

長生町で受け継がれる「おいのこさん」



鳥や獣の害から農作物を守って豊作を祝う「亥の子行事」が、長生公民館で行われている。由来は旧暦10月の「亥の日」に、子どもたちが「ホテ」と呼ばれる棒状のわらを手に家を回り、戸口をたたいては餅をもらったというもの。一度は廃れてしまった風習を地元の子どもたちに伝えたいとの思いから復活した。今や「おいのこさん」の名で親しまれ、長生町の秋の風物詩として定着している。

昨年11月25日、公民館前には米や大根、魚などが飾られ、地域の婦人会やセニヤクラブ、長生保育所の園児など約140人が集まった。園児が輪になり「おいのこさんのうた」を歌いながら、ホテを地面にたたきつけて豊作を祝う。その後、今では珍しい石臼ときねを使い、参加者みんなで餅つきを楽しんだ。子どもたちは地域のお年寄りと一緒に餅を食べたり、肩たたきをしてあげたりと、うれしそうに交流していた。



主催する長生婦人会の池添三枝子会長(64歳)は、「行事そのものを受け継ぐだけでなく、毎年新たな要素を取り入れていきたいです」と話す。今年は子どもたちが抹茶をたてて餅と一緒に振る舞った。「毎年趣向を凝らすことで、参加者に楽しんでもらえるし、伝統と新鮮さの両方を感じてもらえることができます。こうした昔ながらの風習は、誰かが伝えなければ途絶えてしまう。子どもたちには未来の世代へと大切に受け継いでいってほしいですね」と願いを込める。

県内で残っている地域は数少なくなつた「おいのこさん」。長生町では、子どもたちに伝統行事を伝える場としてだけでなく、離れた世代が交流できる貴重な場にもなっている。これからも時代とともに少しずつ形を変えながら、大人から子どもたちへ、そしてその次の世代へと大切に受け継がれていくに違いない。